

みずほマーケット・トピック(2024 年 5 月 24 日)

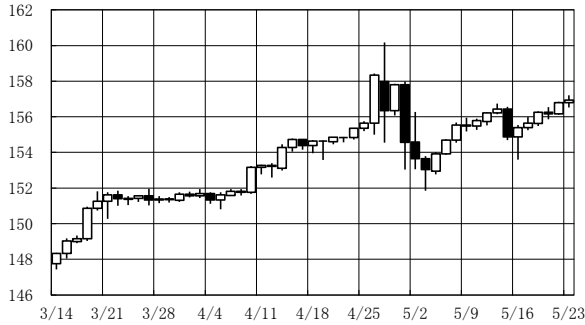
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

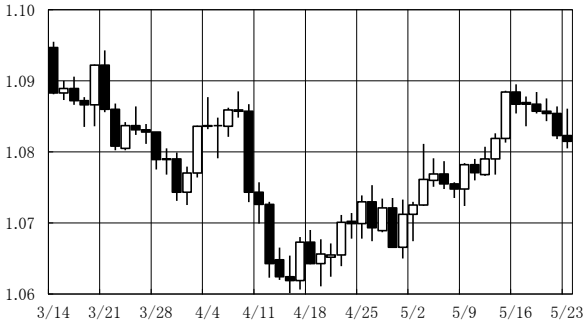
- 今週のドル/円は週後半にかけて続伸し、約3週間ぶりの高値圏を回復。週初20日、155.79円でオープンしたドル/円は、新規材料に欠ける中で週安値の155.50円まで軟化した。総じて155円台後半で小動き。海外時間は、複数のFRB高官によるタカ派的な発言を受けた米金利上昇を背景に156円台前半まで急上昇した。21日、ドル/円は前日のドル買い地合いが継続し156円台半ばまで上伸後、米金利低下に合わせ反落。海外時間は、FRB高官らによる発言に上下動。ウォラーFRB理事による景気減速の兆候指摘や、数か月後の利下げを示唆した発言に一旦は156円を割り込むも、その後複数のFRB高官による早期利下げに慎重な発言が下支えとなり、156円台前半まで回復。22日、ドル/円は米金利上昇につれてじり高。海外時間は、米金利が低下に転じたが、その後のFOMC議事要旨(5月会合分)でインフレ減速を想定しつつも、早期利下げに慎重な発言がタカ派的と受け止められ、ドル高となり156円台後半まで続伸した。23日、ドル/円は156円台後半で上値重く推移。海外時間は米5月PMIが製造業・サービス業とも強い結果となり157.19円をつけ、約3週間ぶりの高値水準まで急伸。本日のドル/円は、引き続き前日の高値圏で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは米金利の動向に左右され週後半にかけて続落した。週初20日、1.0872でオープンしユーロ/ドルは週高値の1.0884まで上伸後、米金利上昇に押され1.08台半ばまで軟化した。21日、ユーロ/ドルは米金利低下が支援材料となり1.08台後半まで小幅高。その後は独金利低下や欧州株の軟調推移を受けて1.08台半ばまで値を下げた。22日、ユーロ/ドルは米金利の動向に左右され上下動する中で、FOMC議事要旨公表後はドル高となり1.08台前半まで続落。23日、ユーロ/ドルはユーロ圏5月製造業PMI(速報)の良好な結果を受け1.08台半ばまで上昇も、その後は堅調な米経済指標の結果を受け、週安値の1.0805まで反落して引けた。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.08台前半で上値重く推移している。

		前週末	今 週				
		5/17(Fri)	5/20(Mon)	5/21(Tue)	5/22(Wed)	5/23(Thu)	
ドル/円	東京9:00	155.39	155.79	156.40	156.26	156.75	
	High	155.98	156.31	156.55	156.85	157.19	
	Low	155.25	155.50	155.85	156.12	156.53	
	NY 17:00	155.65	156.27	156.20	156.82	156.98	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0868	1.0872	1.0861	1.0854	1.0826	
	High	1.0878	1.0884	1.0874	1.0863	1.0861	
	Low	1.0836	1.0854	1.0843	1.0818	1.0805	
	NY 17:00	1.0868	1.0857	1.0854	1.0822	1.0816	
ユーロ/円	東京9:00	168.84	169.39	169.85	169.72	169.73	
	High	169.29	169.78	169.92	169.89	170.25	
	Low	168.79	169.15	169.23	169.45	169.38	
	NY 17:00	169.23	169.70	169.55	169.67	169.72	
日経平均株価		38,787.38	39,069.68	38,946.93	38,617.10	39,103.22	
TOPIX		2,745.62	2,768.04	2,759.72	2,737.36	2,754.75	
NYダウ工業株30種平均		40,003.59	39,806.77	39,872.99	39,671.04	39,065.26	
NASDAQ		16,685.97	16,794.87	16,832.62	16,801.54	16,736.03	
日本10年債		0.94%	0.97%	0.98%	1.00%	1.00%	
米国10年債		4.42%	4.45%	4.41%	4.42%	4.48%	
原油価格(WTI)		79.58	79.30	78.66	77.57	76.87	
金(NY)		2,417.40	2,438.50	2,425.90	2,392.90	2,337.20	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、31日(金)には4月個人消費支出(PCE)デフレーターが公表予定。前回3月の結果は、総合ベースでは+2.7%(前年比、以下同様)と市場予想の+2.6%および2月の+2.5%を上回った。また、コアベースでは+2.8%と2月から横ばいだったが、市場予想の+2.7%を上回った。幅広い項目でディスインフレーションの遅れが確認されており、例えば食品・エネルギー価格は+0.1%から+1.9%へ大きく加速した。資源価格高騰などを反映している。懸案のサービス価格も+4.0%と高止まりをしており、特にFRBが重視する居住費除くコアサービス価格は、ブルームバーグの試算によれば+3.50%と2月から反発しており、依然として良好な雇用環境と強い賃金情勢が見て取れる。なお、ブルームバーグの事前予想では、4月の結果に関し総合ベースで+2.7%、コアベースで+2.8%と見込んでいる。
- 欧州では、31日(金)にユーロ圏5月消費者物価指数(HICP、速報)が公表予定。4月の結果(確報)は総合ベースで+2.4%(前年比、以下同様)と3月から横ばい推移に落ち着いている。また、エネルギー、食料品、アルコール、タバコを除いたコアベースでは、+2.7%と3月の+2.9%から減速、2年以上ぶりの低い伸び率となった。内訳を確認すると、ECBが警戒するサービス価格が+3.7%となり、5か月続いていた+4.0%から久しぶりに減速した。ただし、昨日公表された1〜3月期のユーロ圏妥結賃金は+4.69%となり、10〜12月期の+4.45%から伸びが加速に転じ、先行する求人広告賃金よりも強い結果となった。利下げ実施が確実視される6月ECB政策理事会に向けては、最後の重要指標が5月HICPであり、その後の利下げペースを占ううえで市場の注目は相応に集まるだろう。なお、5月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+2.6%、コアベースで+2.8%と見込んでいる。

	本 邦	海 外
5月24日(金)	・4月消費者物価指数	・独1〜3月期GDP(確報) ・米4月耐久財受注(速報) ・米5月シガン大学消費者マインド(確報)
27日(月)	・3月景気動向指数(確報)	・独5月IFO企業景況感指数
28日(火)	・4月企業向けサービス価格指数	・米3月FHFA住宅価格指数 ・米5月コンファレンスボード消費者信頼感
29日(水)	・5月消費者態度指数	・独6月GfK消費者信頼感 ・独5月消費者物価指数(速報) ・米ペーリュック公表
30日(木)	—————	・ユーロ圏5月消費者信頼感(速報) ・ユーロ圏4月失業率 ・米1〜3月期GDP(改定値)
31日(金)	・4月失業率/有効求人倍率 ・5月東京消費者物価指数 ・4月鉱工業生産(速報)	・ユーロ圏5月消費者物価指数(速報) ・米4月個人所得/支出 ・米4月個人消費支出デフレーター

【当面の主要行事日程(2024年6月〜)】

ECB政策理事会(6月6日、7月18日、9月12日)

FOMC(6月11〜12日、7月30〜31日、9月17〜18日)

日銀金融政策決定会合(6月13〜14日、7月30〜31日、9月19〜20日)

ジャクソンホール経済シンポジウム(8月22〜24日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年5月23日	金利差縮小でも円安修正は進まず～議事要旨を受けて～
2024年5月22日	「もしトラ」で注目される欧州の立ち回り
2024年5月21日	ユーロ圏経済の近況～「底入れ」という不都合な真実～
2024年5月20日	垣間見えたECBの「次の一手」～ECB理事インタビュー～
2024年5月17日	週末版（色濃くなるスタグフレーションの様相～窮屈になる日銀の政策環境～）
2024年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2024年4月分） 円安抑止の処方箋～即効性と持続性のトレードオフ～
2024年5月14日	通貨政策化する金融政策～定着する「為替との戦い」～
2024年5月13日	1～3月期国際収支統計～需給改善を確認～
2024年5月10日	週末版
2024年5月9日	遂にインフレ税が始まったのか？～円安と債務～
2024年5月8日	FRBの「次の一手」と円相場場の予想パスについて
2024年5月7日	円安抑止の処方箋～NISA国内投資枠～
2024年5月2日	週末版（レバトリ減税について～「5%の摩擦」に拘るべき～）
2024年4月30日	日銀が回避した為替との戦い、今後のリスク
2024年4月26日	週末版
2024年4月25日	トランプ氏と為替～結局、何も考えていない？～
2024年4月23日	世界経済の下方シフトの背景にあるもの～IMF分析～
2024年4月22日	ドル高是正の国際協調に機は熟せず～G20とドル高～
2024年4月19日	週末版
2024年4月18日	IMF世界経済見通しを受けて～またも「分断」はテーマに～
2024年4月17日	前途多難な貿易収支～待たれる電源構成の変化～
2024年4月16日	最悪のシナリオは米利上げ再開～中東リスクと円安
2024年4月15日	依然赤字圏のCFベース経常収支～原油価格騰勢の足音～
2024年4月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2024年3月分） 週末版（ECB政策理事会を受けて～6月利下げはほぼ既定路線へ～）
2024年4月11日	「でこぼこ道」か「再燃の入口」か～米3月CPIを受けて～
2024年4月10日	過去最高ペースだった「家計の円売り」～Q1を終えて～
2024年4月9日	対内直接投資のキーワードは「資本はアジア、業種は金融・保険業」へ
2024年4月8日	独歩安だった円相場～第1四半期振り返り～
2024年4月5日	週末版
2024年4月4日	ECBは6月利下げに向けて第一関門突破
2024年4月3日	外貨準備構成通貨の近況について（2023年12月末時点）
2024年4月2日	デジタル強国アイルランドの存在感をどう考えるか？
2024年4月1日	デジタル赤字は日本だけの問題なのか？
2024年3月29日	週末版
2024年3月27日	円安・円高双方のリスクになる連続利上げ
2024年3月25日	23年末資金循環統計を受けて～株・外貨共に過去最高目前～
2024年3月22日	週末版（FOMCを受けて～少なくなるドル/円相場場の「押し目」）
2024年3月21日	「債券市場への優しさ」が助長した円安～日銀決定を受けて～
2024年3月18日	「噂で売って、事実でも売り」になりそうな円相場
2024年3月15日	週末版（「家計の円売り」は3月も続くのか？～試される個人投資家の芯～）
2024年3月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2024年2月分）
2024年3月13日	春闘と円高リスク～「異例の賃上げムード」というリスク～
2024年3月12日	最近の国際収支の状況について～CFでは初月赤字～
2024年3月11日	最大の円高リスクは日銀の連続利上げ
2024年3月8日	週末版（ECB政策理事会を終えて～6月まで材料なし～）
2024年3月6日	世界の株価指数から見えるもの～中進国の容疑～
2024年3月5日	ユーロ圏の賃金・物価情勢～妥結賃金は年内4%台か～
2024年3月1日	週末版（マイナス金利解除と円相場場の関係性～ドル/円相場、数少ない押し目の考え方～）
2024年2月27日	ユーロ圏の現状と展望～金利と需給から～
2024年2月26日	日経平均株価上昇の理由～インフレの帰結～
2024年2月22日	週末版
2024年2月21日	1月貿易収支を受けて～24年も円売り優勢変わらず～
2024年2月20日	日独GDP逆転の本質～為替要因だから良いのか？～
2024年2月16日	週末版
2024年2月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2024年1月分） 本邦10～12月期GDPを受けて～総崩れ～
2024年2月14日	「新時代の赤字」と原油と同質性
2024年2月13日	投信経由の対外証券投資～涉む資産運用立国の未来～
2024年2月9日	週末版
2024年2月8日	仮面の黒字国～戻らぬ円とデジタル農奴～
2024年2月7日	PPPやREERをどう解釈すべきか～インフレ調整という未来～
2024年2月2日	週末版（ソフトランディングと賃金減速～正当性を帯びる「夏」の重要性～）
2024年2月1日	FOMCを終えて～為替市場が狙う「次の獲物」～
2024年1月29日	日本円の現在地～独歩安で始まった2024年～
2024年1月25日	週末版（ECB政策理事会を終えて～「夏」がキープレーズ～）
2024年1月24日	日銀金融政策決定会合～織り込んで円安の怖さ～
2024年1月23日	ECB政策理事会プレビュー～勝利宣言はまだ～
2024年1月22日	「家計の円売り」と「損保のレバトリ」の違い
2024年1月19日	週末版
2024年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2023年12月分） 「貯蓄から逃避」で進む円の独歩安～現状整理～
2024年1月17日	「新時代の赤字」の定点観測と今後の需給イメージ
2024年1月16日	マイルド・キャピタルフライト（後編）～需給への評価～
2024年1月15日	マイルド・キャピタルフライト（前編）～家計の円売り～
2024年1月12日	週末版
2024年1月11日	ユーロ圏インフレ率の近況～再浮揚の読み方～
2024年1月10日	震災と旅行収支の関係について～2011年からの教訓～
2024年1月9日	米大統領選挙の考え方～メインシナリオを覆すか～
2024年1月5日	週末版（能登半島地震の影響について～構造変化を経て「普通の通貨」になった円～）
2024年1月4日	24年、持てつきイメージは「長期円安局面の小休止」
2023年12月22日	週末版（本邦の家計金融資産動向について～外資性資産比率は「根雪」のイメージで～）
2023年12月20日	日銀金融政策決定会合～解除時期と円相場への影響～
2023年12月18日	2024年、円需給の考え方～円転率や貿易収支が課題～
2023年12月15日	週末版（ECB政策理事会を終えて～「利上げ→利下げ」の考え方～）
2023年12月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2023年11月分） FOMCを終えて～突然変わった節目、日銀への影響も～
2023年12月13日	最近の需給環境について～24年も脆弱性は残る～
2023年12月12日	12月日銀会合の行方～政治的観点、2000年との比較～
2023年12月11日	24年ドル/円見通し外観～「主戦場の変化」を確認する年～
2023年12月8日	週末版（円高と植田発言の読み方～チャレンジングの真意～）
2023年12月7日	ECB、シュナーベル発言の読み方～拡大解釈を警戒～